

Close Up

クローズアップ
四輪販売会社

Honda の四輪販売会社が 高校で産学連携授業を実施

(株)ホンダカーズ東海は愛知県で Honda Cars 東海、岐阜県で Honda Cars 岐阜中央を展開する四輪販売会社である。同社は2019年度から岐阜県立大垣商業高等学校で産学連携授業を実施している。

同社経営企画室室長 水口守史さんは「当社の販売拠点がある地元の高校生にクルマの魅力や自動車業界への理解を深めてもらおうと、私が高校への出張授業を提案したのが始まりです」と振り返る。「授業の中心は『高校生が考える未来の自動車ディーラー』をテーマにディスカッションしてもらうことですが、1年目に販売拠点の見学を行った時、ショールームの展示車両の前で生徒の皆さんが目を輝かせていたのはとても印象的でした。以来、クルマに直接触れる機会を設けるといった高校生とクルマの接点を強化することも意識しています」。

実車に触れることで

生徒の興味がわいてくる

2021年度は10月から11月にかけて2時限授業を4回実施。大垣商業高校・総合ビジネス科の3年生79名が受講した。SDGs※1を切り口に「高校生が考える未来の自動車ディーラー×SDGs」というテーマで進められた。

「SDGsは教育現場にも浸透しつつあり、高校生が取り組みやすい切り口といえます。そこから、安全と環境の課題へと掘り下げてほしいと考えました」と水口さんは説明する。

●2021年度 大垣商業高等学校 産学連携授業

日程	内容
第1回 (10月8日) オンライン	・自動車業界についての解説 メーカー（製造）とディーラー（小売）の役割、販売拠点の職種 ・Hondaの安全技術（Honda SENSING）の紹介 ・SDGsとは
第2回 (10月22日) 対面	・電気自動車（Honda e）の展示 ・生徒がインターネットを使って様々な企業のSDGsの取り組みを調査
第3回 (11月12日) オンライン	・「Honda サステナビリティレポート※2」を題材にメーカーやディーラーのSDGsに対する取り組みを紹介
第4回 (11月26日) オンライン	・課題発表 「環境負荷ゼロに向けた取り組み」 「交通事故死者ゼロに向けた取り組み」のどちらかを選択し、企画書を作成 ・課題研究、グループワーク
第5回 (1月14日) オンライン	・生徒によるプレゼンテーション（中止）

第1回は自動車業界やHondaの安全技術について説明。第2回はクルマに触れてもらう機会として、校内に電気自動車（Honda e）2台を展示した。車両を持ち込んだHonda Cars 岐阜中央 大垣禾森店店主 中村弘高さんは今の高校生はクルマに興味がないと思っていたが、それは間違った認識だと気がついたという。「実車を目の前にすると興味がわいてくるのでしょうか。電気自動車の性能などについて、生徒のほうから次々と私に質問してくれるのです。『将来、絶対に買います！』という生徒もいて、クルマを販売する現場の者としてとてもうれしく感じました」。

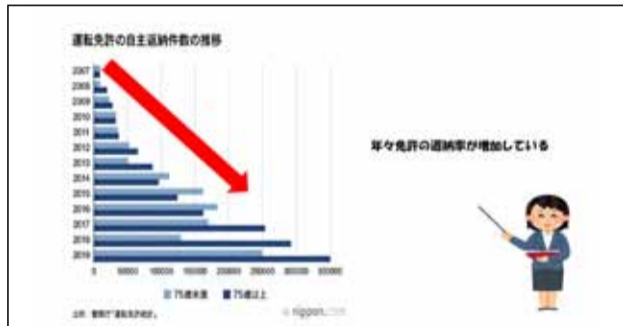
「環境と安全」の問題に対し

自動車ディーラーは何ができるか

第3回では、さらに深掘りをしてもらうため、サステナビリティレポートを活用してHondaの「環境負荷ゼロに向けた取り組み」と「交通事故死者ゼロに向けた取り組み」について学んでもらった。そして、第4回では、



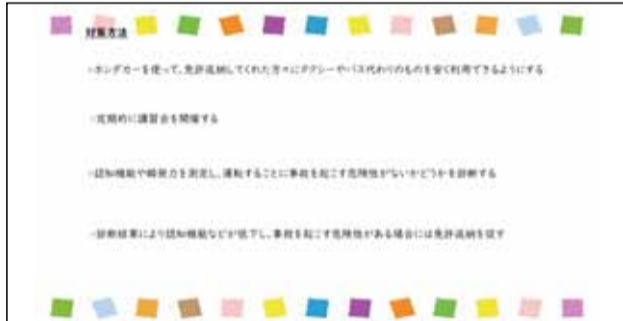
2021年度の産学連携授業では生徒たちに電気自動車（Honda e）を見て触れてもらう機会を設けた



順位	都道府県	免許返納率	順位	都道府県	免許返納率
1位	東京都	7.8%	42位	和歌山県	4.0%
2位	大阪府	7.3%	43位	長野県	3.9%
3位	兵庫県	6.2%	44位	徳島県	3.7%
4位	神奈川県	6.1%	45位	山梨県	3.7%
5位	静岡県	5.9%	46位	宮城県	3.6%
6位	富山県	5.7%	47位	高知県	3.6%

メリット
・事故を減らす効果が期待できる

デメリット
・車は生活の足として必要でない



「交通事故死者ゼロに向けた取り組み」をテーマにした班の企画書（一部抜粋）

生徒たちが(株)ホンダカーズ東海の社員であるという設定で水口さんから次のような課題が出された。「皆さんはSDGsへの取り組みを推進、業界のトップランナーをめざすためのプロジェクトメンバーに選出されました。今後どのような取り組みを実施すべきか、他のメンバーと話し合ってください」。自動車業界全体の課題でもある「環境と安全」をテーマに、自動車ディーラーとして地域社会に貢献していきたいというSDGsへの想いを伝えた上で、「環境負荷ゼロ」または「交通事故死者ゼロ」に向けた取り組みについて企画書を作成するよう、生徒に依頼した。

生徒たちは20の班に分かれ、班ごとに選択したテーマについて討議。その後、時間をかけて企画書にまとめ、先生方と生徒による審査によって5つに絞り込んだ。当初は第5回の授業として、1月14日に選ばれた5つの班が水口さんにプレゼンテーションする発表会が開催される予定であった。しかし、当日は大雪の影響で休校となり、発表会は中止となったのである。そのため、水口さんが5つの班がまとめた企画書を審査し、講評を大垣商業高校に送るという形で産学連携授業は終了となった。

生徒の発想や考え方は

啓発活動のヒントになる

この産学連携授業には、岐阜県大垣市内でHonda Cars大垣を展開する(株)ホンダ四輪販売丸順も協力している。企画書の審査に加わった同社代表取締役社長 今川喜章さんは次のように評価した。

「若い人も安全や環境について一生懸命に考えてくれていてと感じました。特に、高齢運転者による事故への関

講義を受けて感じたこと

電気自動車(EV)の値段が高いことに驚いた！
・電気自動車に乗りたいたいという声は多いが、値段の高さが購買への決断の妨げに...
・普通自動車や軽自動車への選択になってしまう
・ディーラーとしてお客様への最適な決断を

お客様が電気自動車(UV)を選択しやすくなるように私たちがする提案は、...

私たちの提案

①電気自動車の販売促進
②環境に優しい職場づくり
★電気自動車(EV)のブランド化

・行動経済学の観点から、思ったよりも高いという印象よりも、もともと高いものだと感じていたところから補助金などが出される方が購買意欲につながる
・デジタル需要に対してスマホとの独自の連携などを打ち出した高級嗜好の売り方をする

〈具体的なブランド化の概要〉

分かりやすい高級車の印象をEV車につける

①EV車のコンセプトと世界観を、一瞬のうちに対象者の心の中に広げるキャッチ・コピーを考える
⇒「EV車は高いと思っていな？ そう高いんです。」
「国が定める高級車」

②重厚感のあるポスターなどを自社で作成する。
⇒高級車だとわかりやすいようにスポーツカーのような疾走感や高級感のあるポスターにする。
(力強く走るポスターで、電気自動車は長距離を走れないというイメージの払拭)

「環境負荷ゼロに向けた取り組み」をテーマにした班の企画書（一部抜粋）

心が高いことがうかがえます。岐阜県はクルマがないと生活に支障をきたす人が大勢いますし、生徒さんの祖父母にあたる方は運転免許の返納を思案する年代だからでしょう。高齢者にとって安心して運転できるクルマは、初心者の人や経験の浅い若者にとっても安心できるという発想は高く評価できます。また、VRを活用した試乗体験といった若い人ならではのアイデアもあり、私も勉強になりました。今回の企画書を拝見して、お客様と接する際に私たちのSDGsへの取り組みを伝えることが必要だと再認識させられました。

授業を受講した生徒からは「交通事故は他人事ではないと思うようになり、自転車に乗る時にクルマだけでなく、歩行者にも注意するようになりました」「これからクルマを運転する立場になったら、スピードを抑えるなど安全運転を意識したいと思います」「クルマを購入する際は、事故を防ぐために自分に必要な機能などをディーラーの人と相談したいと思いました」という声が聞かれた。(株)ホンダカーズ東海は高校だけでなく、大学とも産学連携を行っている。生徒や学生からの提案をそのまま実現させることは難しいが、発想や考え方は大いに参考になり、特に交通安全啓発活動においては、ツールの作成やイベントの企画に活かせるものがあると水口さんはいう。「お客様の交通事故防止につながるヒントが提案の中に隠されています。店頭での交通安全教室もよく提案の中に出てきますので、実現できるように検討していきたいと思っています」。

※1 Sustainable Development Goals（持続可能な開発目標）。2015年9月の国連サミットで採択され、国連加盟193カ国が2016年から2030年の15年間で達成するために掲げた17の目標。
※2 詳細は以下のホームページ参照。
<https://www.honda.co.jp/sustainability/>